

2016年（平成28年） 11月25日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

11/11～11/16のNYMEX・WTIは、OPEC減産実施への期待感と懐疑論が交錯する中、43.32～45.81ドルの狭い範囲で推移した。

11月17日は、サウジのファリハ・エネルギー相の楽観的発言やロシアのノバク・エネルギー相の増産凍結への支持発言が伝わり、主要産油国による協調減産への期待感が高まったものの、イランの増産姿勢に対する懸念やイエレンFRB議長の早期利上げを示唆する議会証言によるドル高進行に伴う原油の割高感から、小幅続落した。12月限の終値は前日比0.15ドル安の45.42ドルだった。週末18日は、米国稼働石油リグ数増加(471基、前週比19基増)の報告があったが、主要産油国の協調減産への期待が高まりから反発した。12月限は前日比0.27ドル高の45.69ドルで終了した。

週明け21日は、イランのザンガネ石油相やイラクのルアイビ石油相等の減産合意への楽観的発言など、前週末からの減産期待がさらに高まり、大幅続伸した。12月限の終値は前日比1.80ドル高の47.49ドルとなった。

22日は、朝方ロイターが、OPECが産油量4～4.5%を6か月間減産すると案を協議中と報道したことで買いが先行したものの、減産に消極的なイランとイラクが態度を保留中で実効的な減産合意は難しいとの見方も強く、3営業日振りに反落した。この日から期近物となった1月限の終値は0.21ドル安の48.03ドルとなった。

23日は、EIAによる米国石油在庫週報で予想外の原油在庫減少の報告により買いが入ったが、ドル高・ユーロ安に伴う原油の割高感に押され、小幅続落した。1月限は前日比0.07ドル安の47.96ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週42.00～44.30ドルの範囲で推移した。17日は43.70ドル、18日は43.30ドル、21日は44.70ドル、22日は46.70ドルで推移した。

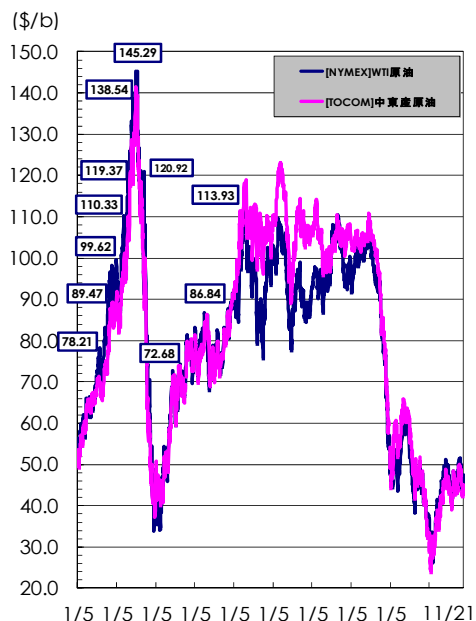
為替は、前週105.63～109.00円の範囲で大きく円安に推移した。17日は108.74円、18日は110.18円、21日は110.95円、22日は110.54円で円安に推移した。

財務省が21日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比1,046円上げの29,676円/kl。ドル建てでは45.48ドルで前旬比0.78ドル高。為替レートは1ドル/103.73円。また、同日の貿易統計速報(月間ベース)によると、10月の原油輸入平均CIF価格は、前月比50円下げの29,100円/kl。ドル建てでは45.17ドルで前月比0.32ドル安。為替レートは1ドル/102.42円。

主要元売会社の11月第5週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、0.5～2.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートは大幅円安で、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、11月21日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値下がりの125.8円、軽油が0.2円値下がりの104.9円、灯油は0.1円値上がりの66.0円だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は7週振りの値下がり、灯油は6週連続の値上がりだった。この週(11月第4週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きから3.0円の値下がりだった。

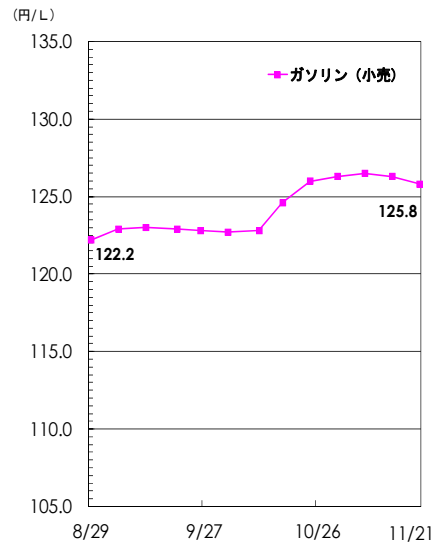
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/13～11/19	3,574 ▼ -44	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.7 ▼ -1.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/19	15,185 ▲ 777	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/21	45.17 ▲ 2.80	▲ 2.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/21	47.49 ▲ 4.17	▲ 5.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	45.48 ▲ 0.78	▼ -2.43
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	29,676 ▲ 1,046	▼ -6,485
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	103.73 ▼ -1.91	▲ 16.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/21	111.95 ▼ -3.59	▲ 11.92



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/13 ~ 11/19	993 ▼ -5	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	974 ▲ 32	▲ -	
	輸出	"	40 ▲ 18	▼ -	
	在庫	11/19	1,590 ▼ -21	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/15 ~ 11/21	41.4 ▼ -0.2	▼ -4.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/15 ~ 11/21	41.9 ▲ 1.7	▼ -3.4
		(TOCOM/中部)	11/21	43.2 ▲ 3.2	▼ -2.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/21	125.8 ▼ -0.5	▼ -4.5	

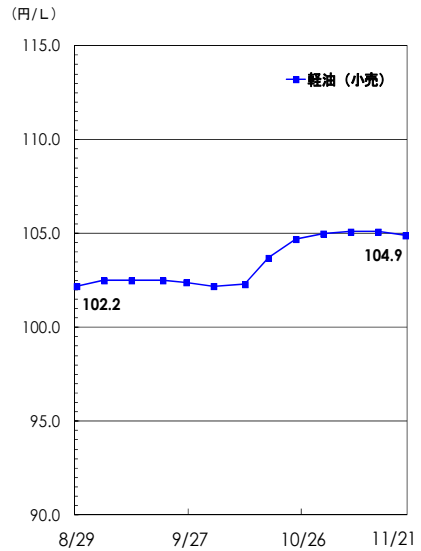
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

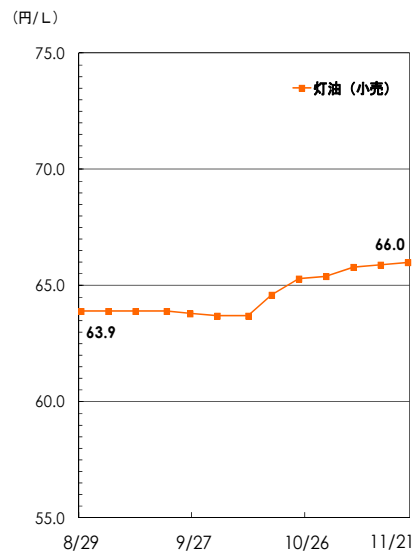
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/13 ~ 11/19	868 ▲ 32	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	654 ▼ -42	▼ -	
	輸出	"	206 ▲ 39	▲ -	
	在庫	11/19	1,435 ▲ 7	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/15 ~ 11/21	42.6 ▼ -0.2	▼ -8.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/15 ~ 11/21	43.0 ▲ 1.2	▲ 0.4
		(TOCOM/中部)	11/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/21	104.9 ▼ -0.2	▼ -5.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/13 ~ 11/19	299 ▼ -3	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	380 ▲ 2	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -26	▶ -	
	在庫	11/19	2,393 ▼ -81	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/15 ~ 11/21	45.7 ▲ 1.5	▼ -1.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/15 ~ 11/21	45.8 ▲ 2.1	▲ 0.5
		(TOCOM/中部)	11/21	46.6 ▲ 2.8	▲ 2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/21	66.0 ▲ 0.1	▼ -9.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

23日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、原油在庫が前週比130万バレル減と事前の市場予想(同70万バレル増)に反して減少したことから、買いが入ったものの、ドル高・ユーロ安の進行に伴う原油の割高感に加えて、OPEC協調減産への懐疑的な見方から、小幅続落した。1月限の終値は前日比0.07ドル安の47.96ドル、2月限の終値は前日比0.07ドル高の48.86ドルだった。

EIAによると11月21日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.9セント値下がりの1ガロン2.155ドル(63.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.2セント値下がりの2.421ドル(71.5円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、11月13日～19日に休止したトッパー能力は、21.3万バレル/日と前週に比べて5.7万バレル増加。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は357.4万klと、前週に比べ4.4万kl減少。前年に対しては4.5万klの増加。トッパー稼働率は84.7%と前週に対して1.1ポイントの減少、前年に対しては3.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.5%減、ジェット/11.5%減、灯油/1.1%減、軽油/3.8%増、A重油/6.2%増、C重油/3.9%減。今週のC重油の輸入は10.7万kl(前週比7.2万kl増)。軽油の輸出は20.6万kl(前週比3.9万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比では軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格の値下がり続き、小売価格も2週連続で値下がりとなる中、ガソリンの出荷は97.4万kl(対前週3.4%増)と2週振りに前週比で増加、8週連続で前年比で増加となり、11週連続で100万klを割った。

ジェット14.9万kl(対前週31.8%増)、灯油38.0万kl(対前週0.5%増)、軽油65.4万kl(対前週6.1%減)、A重油21.8万

kl(対前週3.9%減)、C重油31.6万kl(対前週28.2%増)。

(単位：千KL)

	今週 (11/13 ~ 11/19)	前週 (11/6 ~ 11/12)	前週比	
ガソリン	974	942	▲ 32	(3%)
ジェット燃料	149	113	▲ 36	(32%)
灯油	380	378	▲ 2	(1%)
軽油	654	696	▼ -42	(-6%)
A重油	218	227	▼ -9	(-4%)
C重油	316	247	▲ 69	(28%)
合計	2,691	2,603	▲ 88	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月19日時点の在庫は軽油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全油種で取り崩しとなった。

ガソリンは159.0万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては16.8万kl少ない。

灯油は239.3万kl、前週差8.1万kl減。前年に対しては64.3万kl少ない。

軽油は143.5万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては3.0万kl少ない。

A重油は70.9万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては8.4万kl少ない。

C重油は188.2万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては34.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/19)	前週 (11/12)	前週比	
ガソリン	1,590	1,611	▼ -21	(-1%)
ジェット燃料	993	1,021	▼ -28	(-3%)
灯油	2,393	2,474	▼ -81	(-3%)
軽油	1,435	1,428	▲ 7	(0%)
A重油	709	728	▼ -19	(-3%)
C重油	1,882	1,915	▼ -33	(-2%)
合計	9,002	9,177	▼ -175	(-1.9%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月15日から11月21日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安でコストアップ要因であることから、原油コストは値上がりと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン95円台、軽油42円台、灯油44～46円台で灯油が値上がりした。海上スポット価格は、ガソリン95～96円台、軽油46～47円台、灯油45～47円台で全般的に堅調だった。先物価格はガソリン94～96円台、軽油43円台、灯油44～46円台だった。元売の卸価格は0.5円から2.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは11月24日、11月26日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、灯油を3.0円、その他の油種を1.0～2.0円値上げする旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値下がりし、卸価格も引き下げられたことから、製品スポット市況はガソリンを中心に軟調となった。週間のガソリン販売量は、11週連続で100万klを下回ったが、8週連続で前年を上回った。

11月第5週(11月24日～11月30日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月15日～11月21日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円、軽油は0.2円の値下がり、灯油は1.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.1円、灯油は1.1円、軽油は1.3円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.7円、灯油が2.1円、軽油が1.2円の値上がりだった。原油価格は値上がり、為替は円安で、原油コストは値上がりとなり、陸上物を除いて製品スポット価格も堅調となった。

11月第5週の大手元売の卸価格は、0.5円から2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位:円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (11/15～11/21)	前週 (11/8～11/14)	前週比
スポット価格	レギュラー	41.4	41.6	▼ -0.2
	灯油	45.7	44.2	▲ 1.5
	軽油	42.6	42.8	▼ -0.2

(TOCOM)		(単位:円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (11/15～11/21)	前週 (11/8～11/14)	前週比
先物価格	レギュラー	41.9	40.2	▲ 1.7
	灯油	45.8	43.7	▲ 2.1
	軽油	43.0	41.8	▲ 1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/15～11/21実績値) (単位:円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▲ 1.7	▲ 0.8
灯油	▲ 1.5	▲ 2.1	▲ 1.8
軽油	▼ -0.2	▲ 1.2	▲ 0.5
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月21日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値下がりの125.8円、軽油が前週比0.2円値下がりの104.9円、灯油は前週比0.1円値上がりの66.0円だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は7週振りの値下がり、灯油は6週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは5都県、横ばいは4県、値下がりは38道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県120.9円(前週比0.1円高)、次が千葉県122.1円(前週比0.1円安)だった。最高値は長崎県の135.3円(同0.4円高)だった。都道府県別で最も値上

がりしたのは、前週比0.4円高の長崎県(135.3円)、東京都(128.5円)、和歌山県(126.4円)で、最も値下がりしたのは2.0円安の福井県(126.8円)だった。

原油コストは値下がりし、2週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の元売会社の卸価格は0.5～2.0円の値上げだった。原油価格は値上がりし、為替レートは円安に振れており、原油コストは値上がりとなったため、次週のガソリンの小売価格は小幅な値上がり、灯油の小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位:円/%)				
		今週 (11/21)	前週 (11/14)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	125.8	126.3	▼ -0.5	08/8/4	185.1
	灯油	66.0	65.9	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	104.9	105.1	▼ -0.2	08/8/4	167.4

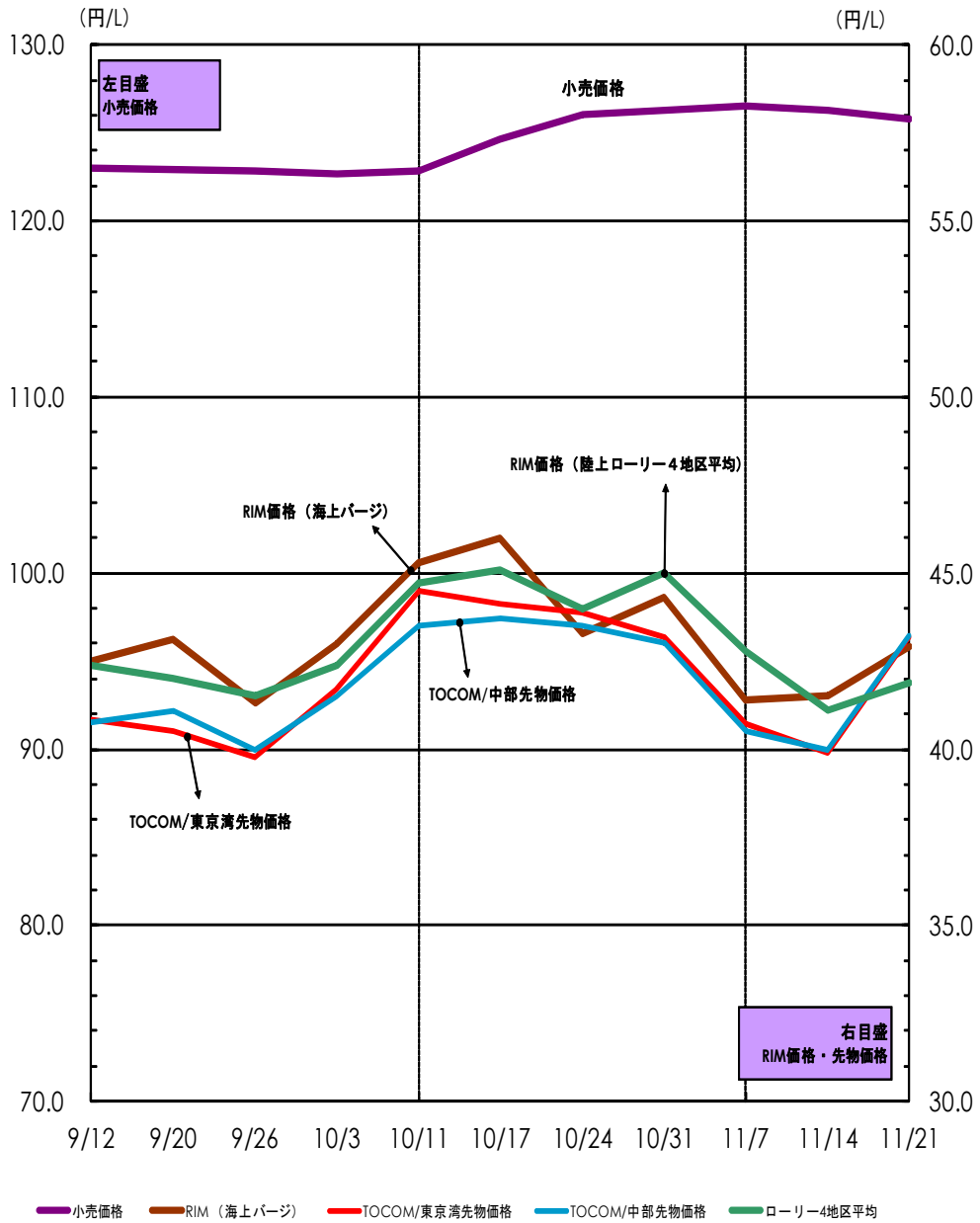
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/9/12 ~ 2016/11/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第34号)の公表は、12/2(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。